



東アジアの兵器革命

久芳崇著

十六世紀の日本は 技術先進国？

豊臣秀吉の十六世紀、日本は東アジアの技術先進国だった。

久芳崇著の「東アジアの兵器革命」十六世紀中国に渡った日本の鉄砲（吉川弘文館）によると・・・

長篠で武田軍団に対峙した織田信長は、柵を設け、鉄砲隊を三段に配置。先頭が発砲、次の段は鉄砲を構え、後段は弾込め。順繰りに発砲し武田軍団を破った。輪番射撃戦法と云われる。大阪城の天守閣にそれを描いた屏風があった。

明は日本軍の鉄砲 に悩まされた

朝鮮への明の援軍は日本軍の輪番戦法

に悩まされたこと、日本の鉄砲が鍛鉄製で強く、明の青銅製では対抗できなかったとある。そして、日本軍捕虜から、その戦法、鉄砲の製造技術を学び、当時、東北方面から圧力を強めつつあった女真族、後の「清」と対抗したことを久芳氏は解明している。

東アジアでは技術 先進国

つまり、ヨーロッパから鉄砲が伝来したことから、日本は科学技術の面で後れを取っていたように思っていたが、直ちに取り入れて堺などで盛んに製造するなど、工業技術については当時、東アジアでは先進国だったらしい。

イスタンブールの水道橋

イスタンブールにはローマ時代からの遺跡が沢山ある。遠景のアーチは四世紀に作られたヴァレンス水道橋。二つの丘をつなぎ、水を供給する。



その橋の下にお肉屋さんばかり並んだ商店街があった。

そのカフェで一休みしていると、緑色のワゴンを押したおじさんがやって来て、近くの店にコードを伸ばした。すると、お肉屋さんから人が次々と出てきた。手に包丁を持って。そう、おじさんは包丁研ぎ師だったのだ。

このお肉屋さんの商店街はレストランなどから買い付けに来るところらしい。ハーブなども大きな束で置いてあった。生きた山羊の居る店もあった。食材？あるいはペット？